

アジアからの研修生を囲んで

毎年恒例になりましたアジアからの研修生との集いが今年も勝楽寺で行われます。

神戸にある国際協力NGOの(財)PHD協会のプログラムを通じて、ネパール、ミャンマー(ビルマ)、インドネシアからやってきた3人の研修生が一年間にわたって日本で学び、生活しています。彼らの村の様子や研修の報告に耳を傾け、交流しませんか? ご参加をお待ちしています。

日時: 2015年11月13日(金) 19:00~21:30

会場: 勝楽寺(東京都町田市原町田3-5-12 Tel:042-722-3147)

※小田急線「町田」駅西口・東口より徒歩約20分、JR線「町田」駅ターミナル口より徒歩5分・中央口より徒歩約15分

参加費: 500円(食事代込み)

プログラム: 研修生からの報告(日本語)、質問コーナー、交流会(食事付き)、物品販売

申込先: 勝楽寺(電話:042-722-3147)

申込締切: 人数把握のため、前日の11月12日までに勝楽寺までご連絡ください。

問い合わせ先: (特活)アユス仏教国際協力ネットワーク 担当: 井上

電話 03-3820-5831 FAX 03-3820-5832 メール tokyo@ngo-ayus.jp

今回参加される研修生のみなさんです!

左から

- ・サンティダエーさん
(ミャンマー/ビルマ)
- ・シャフルル(通称ゾン)さん
(インドネシア)
- ・カンチ・マヤ・タマンさん
(ネパール)



サンティダエーさん [ミャンマー20歳]

研修テーマ: 有機農業、教育、保健衛生、協同組合

言語: ビルマ語

宗教: 上座部仏教(テラヴァータ)

第2の都市マンダレーから車で約1時間離れた人口約2,700人のタダインシェ村出身。3人兄弟の長女で、しっかりもの。村では長女が家事を一手に担うことが多く、彼女も朝5時に起き、家族の朝食と昼食を作ることから一日が始まります。

家族で農業を営み、田んぼが約7万㎡、牛2頭。母が田植えの際の人集め等を手広くやっており、長女として後を継ぐ予定です。正直、農業がとても好きという訳ではないのですが、「大学を出ると皆農業をしない。農家の子どもである私たちがやらないといけない」と自分の道を歩む覚悟の強い女性。

大学を卒業後、英語等を子どもたちに教えており、「教えるのが好き」と教育にも強い関心を持っています。

シャフルルさん [インドネシア36歳]

研修テーマ: 有機農業、協同組合、住民組織化

言語: ミナン語、インドネシア語

宗教: イスラム教

タランバプンゴ地域カユジャングイ村から4人目の研修生。娘3人に息子1人のお父さん。サトウキビを主とした農業や大工の仕事をしながら家族を養っており、自給用に魚の養殖もしています。農地が少なく、経済的な余裕があるわけではありませんが、村の治安を守る保安員や、マハットマーという健康体操を教える教室、子どもたちに道徳を教えるなど、ボランティア活動にも積極的です。

化学肥料や農薬の弊害には昔から関心があり、使用を極力避けています。しかし詳しい知識はなく、日本で勉強することを希望しています。他にも魚の養殖や家畜、日本の健康体操についても勉強し、カユジャングイ村の生活向上に役立てようとしています。

カンチ・マヤ・タマンさん [ネパール27歳]

研修テーマ: 保健衛生、教育、協同組合、住民組織化

言語: タマン語、ネパール語

宗教: チベット仏教

首都カトマンズから南東にバスと徒歩で約4時間かかるタクレ村から初の研修生。9人兄弟の末っ子。しかし他の兄弟は病気で事故で皆亡くなり、今は高齢のご両親との3人家族。近くで一人暮らしをしている叔母の世話を住み込みでしています。幼稚園と小学校で先生をし、一家を支えています。女性の地位が高いとは言えない中、農業グループの副代表、女性グループの会計など、多くのボランティア活動に従事しています。

「村には医者もいない、診療所もない。私が応急処置ぐらいができるようになり、お金がない人を診てあげたい」と語るカンチさん。日本では初等教育や保育、応急手当を含む保健衛生を中心に研修を受けます。